

J - クレジット制度管理者 御中

## 実績確認概要書

平成30年9月4日

審査機関名 ロイドレジスター クオリティ アシュアランス リミテッド

### 1. 排出削減事業計画の概要

排出削減事業名	木質バイオマスボイラによる CO2 排出削減プロジェクト
承認番号	KC0608
排出削減事業者名	株式会社 松島
排出削減共同実施事業者名	株式会社F Tカーボン (その他関連事業者名：なし)
事業実施場所	メトロポリタン松島 (住所：新潟県柏崎市鯨波乙1828)
事業の概要	ホテルの加温、給湯用のボイラと暖房用冷温水器を、木質ペレットボイラに転換することにより、灯油使用量（CO2排出量）を削減する。
排出削減	<b>【限界電源二酸化炭素排出係数使用】</b> 2010年度： 164 tCO2 2011年度： 164 tCO2 2012年度： 164 tCO2 2013年度： 166 tCO2 2014年度： 166 tCO2 2015年度： 166 tCO2 2016年度： 166 tCO2 2017年度： 166 tCO2 2018年度： 166 tCO2 (事業実施期間合計 1,322 tCO2)
クレジット認証期間	開始日 2010年4月1日 終了予定日 2018年3月31日
排出削減方法論	方法論番号001「ボイラーの更新」、004「空調設備の更新」

## 2. 本実績確認の対象期間

2016年3月21日～2018年3月31日（第5回目実績報告）

## 3. 実績確認結果

本実績報告期間における排出削減量は、承認排出削減事業計画に従ってモニタリングされた結果に基づき算定されており適正である。

排出削減量	332 tCO <sub>2</sub> (2016年3月21日～2018年3月31日)
-------	---

## 4. 実施した実績確認手続きの概要

以下の実績確認手続きにより、報告された排出削減量に重大な誤りがないことを確認している。

要件	実績確認手続き
排出削減量が承認排出削減事業計画に従って実施した結果生じていること	排出削減量が、承認排出削減事業計画に従って当該計画を実施した結果生じている事を、以下の通り確認した。 1) 開始日の確認（初回実績確認の場合） 初回実績確認ではないので該当しない。  2) 対象期間中の設備稼働の確認 木質ペレットの購買伝票、集計データ及び事業者へのヒアリングにより、導入設備は実績報告期間において継続的に稼働していたことを確認した。
排出削減量が承認排出削減方法論及び承認排出削減事業計画に従って算定されていること	排出削減量は、承認排出削減事業計画に従って実施され、算定されていることを確認した。 1) モニタリング方法の確認 バイオマスボイラの燃料の請求書は、適切に保存されていた。また、暖房用ペレット使用量計算のため、灯油焚冷温水器の暖房運転開始日及び終了日を記録していることをモニタリング担当者へのヒアリングにより、モニタリング方法が方法論及び当該削減計画に沿って実施されていたことを確認した。  2) 活動量の正確性 ペレットの請求書並びに灯油焚冷温水器の暖房運転開始日及び終了日を考慮して給湯用並びに暖房用ペレットの集計が適切になされており、活動量が正確に集計されていることを確

	<p>認した。</p> <p>3) 単位発熱量、排出係数等の確認 灯油の単位発熱量当たりの排出係数は J-クレジット制度のモニタリング・算定規程（排出削減プロジェクト用）Ver.3.2の数値と同じ数値が使用されていることを確認した。バイオマス（木質ペレット）の単位発熱量は、J-クレジット制度承認方法論EN-R-001（Ver.1.5）バイオマス固形燃料（木質バイオマス）による化石燃料又は系統電力の代替のデフォルト値と同じ数値が使用されていることを確認した。</p> <p>4) 排出削減量算定方法及び算定結果の確認 排出削減量の算定結果をペレット使用量の集計データとの突合、計算過程の確認、再計算等実施した結果、排出削減量の算定結果に誤りはないことを確認した。</p>
<p>算定結果がクレジット認証期間の終了日を超えないこと</p>	<p>今回の実績確認対象期間は 2016年3月21日から 2018年 3月31日までとなっているが、J-クレジット制度への移行手続きにより、終了予定日は 2018年3月31日となっているため、クレジット認証期間の終了日を超えないことを確認した。</p>

## 5. 承認排出削減事業計画からの重要な変更点についての評価

本実績確認の対象期間において、承認排出削減事業計画にある冷温水器が廃止されていたが、排出削減量の増大に影響する事象はなかった。

## 6. 特記事項

- ・本事業は、再生可能エネルギーを利用するプロジェクトのため、省エネルギー量はない。
- ・バイオマスの使用量が以下であることを確認した。
  - ボイラーの更新: 3,915GJ、原油換算101.0kL
  - 空調設備の更新: 1,189GJ、原油換算30.7kL。
- ・冷温水器が2017年9月7日で廃止され、2017年11月~2018年3月迄、冷温水器による暖房の削減はなかった。
- ・前回削減量(252tCO<sub>2</sub>/年)に対し今回削減量(162tCO<sub>2</sub>/年)と65%であったのはバイオマス生成熱量の58%を占めていた冷温水器の廃止が主たる原因と推定した。

以上